

競技大会からのメッセージ — 競技取材記 —

高知センター（高知職業能力開発促進センター） 居住系 古山 辰志

1. はじめに

2007年11月に静岡で「第7回国際アビリンピック」と「第39回技能五輪国際大会」が大会史上初めて、「2007年ユニバーサル技能五輪国際大会」として同時に開催された。

国際アビリンピックは、障害のある方の職業的自立の増進と職業技能の向上、事業主および社会一般の理解と認識を深めることを目的とした大会で、おおむね4年に一度開催される。

一方、技能五輪国際大会は、22歳以下（一部の職種を除く）の青年技能者が国際的に技能を競うことにより参加国の職業訓練および技能水準の向上を図ることを目的とした大会である。近年は、原則2年に一度開催されている。両大会合わせて1,172名の技能者が集い、世界一を目指して日ごろ磨き上げた技が競い合われた。

今回、私は国際アビリンピックの「建築CAD職種」にて補佐員として参加する機会をいただき、大会を支えるスタッフとしての取組み、選手との触れ合いを通して、競技大会が放つメッセージに触れてきた。また、自身も競技選手としての経験を持っていることから、競技中の選手の取組みにも注目しながら本大会へのかかわりを試みた。

本稿は、両大会の概要および競技の様子について紹介し、今後継続されるべき大会の在り方について考えるものである。

2. 第7回国際アビリンピック

大会はツインメッセ静岡で開催された。競技初日は皇太子殿下の見学が予定されていたため、朝から大会会場への入場規制がかけられ、大会の大きさを物語っていた。また、競技会場の向かいには、IA2007ワークフェアと題し、「障害者の雇用促進、ユニバーサル社会の実現」について関係団体、企業等による展示があり、大会を一層盛上げていた。

2.1 大会への出場資格

出場資格は、大会時に15歳以上かつ全国障害者技能競技大会のうち、H16～18年度のいずれかで金賞を受賞した方に限られている。また、一度国際大会に出場した者は二度と出場できない条件となっている。

2.2 大会結果

本大会の結果を表1に示す。競技は30競技種目にもおよび、23ヵ国・地域から360名の選手が参加された。終わってみれば、メダル総数の約半数は日本人選手によるものであった。これは非常にすばらしい結果である。ただし、結果は数値でしか残らないため、メダル総数に目を奪われがちであるが、選手一人ひとりの並々な努力により大会が作られていることも忘れてはならない。次項では、補佐員業務の中で間近で触れた選手の競技中の取組みについて紹介していく。

表1 大会結果一覧表

	区分	参加選手の数 (人)		獲得メダルの数 (個)				
				金	銀	銅	特別賞 (※1) 敢闘賞 (※2)	合計
国際アビリンピック (第7回目)	日本人	80		12	17	15	8	52
	トータル	360	(23ヵ国・地域)	31	36	33	18	118
技能五輪国際大会 (第39回目)	日本人	51		16	5	3	8	32
	トータル	812	(46ヵ国・地域)	53	56	56	247	412

※1 特別賞は国際アビリンピック競技にて国際基準を満たしたものに与えられる

※2 敢闘賞は技能五輪国際競技にて国際基準を満たしたものに与えられる

3. 競技の取組み方

—国際アビリンピック編—

国際アビリンピックは身障者の方が選手である。車椅子の方、聴覚障害の方、義足の方等、障害はさまざまである。したがって、同じ課題でも取組み方には大きな違いがあり、競技時間にドラマが生まれる。そこには、各選手の作戦、国をあげての作戦が繰り広げられ、観る者を熱くさせるものがある。ここでは、補佐員業務を務めた「建築CAD職種」について紹介していく。

3.1 競技課題について

課題となる完成例を写真1に示す。これを選手は3時間以内に完成させなければならない。課題は、課題文と複数の図面で与えられ、これらの複合ソースを整理しながら、時間内に正確に描けるかが求められる課題であった。制限時間3時間であったこと

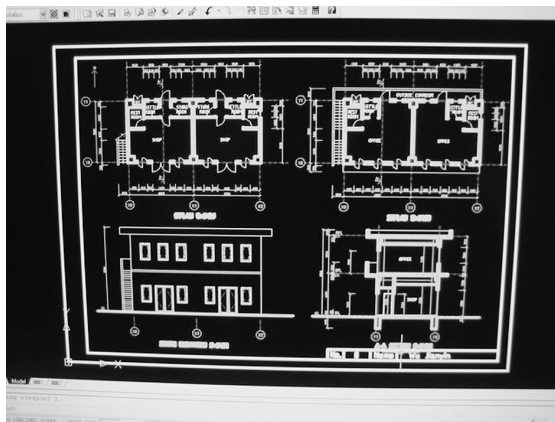


写真1 建築CAD競技課題完成例

を考えると高度な課題であったといえる。健常者の方でも描き上げることが困難ではないかと思わせる課題設定に、課題作成者の意図を感じた。

3.2 競技スケジュール

本競技の準備から実施までの大きな流れは図1に示すとおりである。あらかじめ競技関係者による事前打ち合わせが行われ、競技進行について1つ1つ確認が行われた。特に今回は、本競技職種が国際大会では初めての実施であったため、前例のない中での運営であった。そのため、競技プログラム、競技課題、採点方式等、すべてが始めて尽くしであり、事前打ち合わせには十分な時間が取られた。国際技能大会は国と国の技が競われる場である。1つのミスが大きな混乱を呼び、大会運営に大きな影響を及ぼすことも考えられる。こうしたスタッフによる事前準備は、大会の主役でもある選手を支え、大会全体を支えていく重要な取組みとなる。

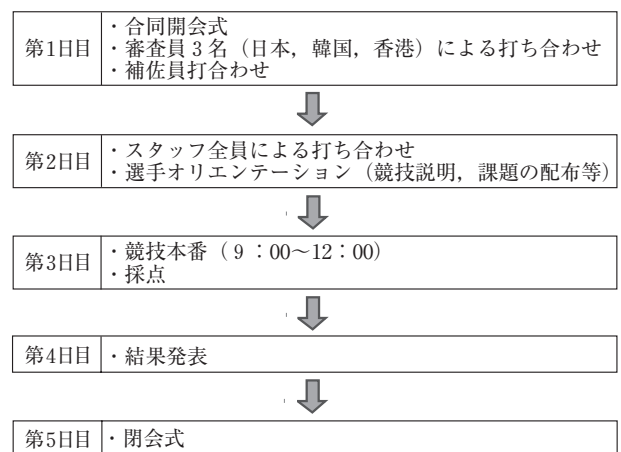


図1 競技スケジュール

表 2 全選手の競技進行状況一覧表

	9:30～10:00 作業内容	10:00～10:30 作業内容	10:30～11:00 作業内容	11:00～11:30 作業内容	11:30～11:45 作業内容	11:45～12:00 作業内容
No.1	1F平面図左区画の建具作成中	2F平面図の区画作成	1F平面図の精度出し 50min頃断面図の作成に入る	断面図の作成中	立面図の作成	平面図の寸法作成 51min頃にプリントアウト
No.2	1F平面図左区画の建具の作成に入る	1F平面図の両区画割 がほぼ完成	1F平面図の精度出し 45min頃2Fの作成に入る 50min頃立面図の作成に入る	立面図が完成 15min頃精度チェック 15min頃プリントアウト	断面図の作成に入る	断面図の寸法作成 55min頃にプリントアウト
No.3	1F平面図左区画の建具はほぼ完成	1F両区画がほぼ完成	1Fと2Fの平面図精度出し 50min頃断面図の作成に入る	断面図の躯体がほぼ完成 15min頃断面図寸法の作成	立面図の作成に入る	全図面がほぼ完成 55min頃にプリントアウト
No.4	1F平面図両区画の建具はほぼ完成 階段作成に入る	1Fと2F平面図の文字入力 20min頃断面突入	2F平面図の精度出し 40min立面突入 プリントアウト 50min頃立面図がほぼ完成	立面図が完成 15min頃断面図の作成中	断面図の文字作成	断面図の寸法作成 プリントアウト
No.5	1F平面図両区画の寸法がほぼ完成	1Fと2Fの平面図がほぼ 完成	断面図作成 45min頃ほぼ完成 50min頃断面図が完成	全図面がほぼ完成 5min頃プリントアウト 15min頃断面図の修正 25min頃精度のチェック	精度のチェック 42min頃プリントアウト	断面図の寸法作成
No.6	1F平面図左区画の間仕切り壁の作成	1F平面図の左区画 がほぼ完成	2F平面図の寸法作成 40min頃断面突入 50min頃断面図にミスを発見し、 やり直しに入る	断面図作成 15min頃断面図の寸法作成	断面図の寸法作成	立面図の作成 56min頃にプリントアウト 59min頃にプリントアウト
No.7	1F平面図左区画の躯体の作成	断面図に取り掛かり 15min立面図に取り掛かる	立面図の精度出し 50min頃断面図の精度出し	平面図寸法の作成	平面図の建具作成	建具の作成 凡例作成 57min頃にプリントアウト
No.8	1F平面図左区画の文字入れ完成	1F平面図がほぼ完成 20min立面図はほぼ完成	立面図の精度出し 40min頃断面作成 50min頃全図面がほぼ完成	精度チェック プリントアウト 15min頃立面図の建具修正	精度のチェック プリントアウト	最終チェック
No.9	F平面図両区画がほぼ完成 (寸法未記入)	立面図へ突入 15min頃断面図躯体部作成	断面図の作成に入る 35min頃にWCへ行く 50min頃平面図寸法の作成	立面図寸法の作成 15min頃断面図の寸法作成	寸法の修正 42min頃プリントアウト	精度チェック 57min頃にプリントアウト

3.3 選手の競技への取組み

選手は図1にも示したとおり、競技本番の前日に一度集まり、競技関係者から競技進行上のルール、課題の説明を受ける。このとき、選手には競技課題があらかじめ配布される。つまり、翌日までに課題に対して準備をする時間が与えられるのである。選手は少なくとも一度は課題図面を描き上げ、競技本番の作戦を練り上げて臨むことになる。

表2は、本競技職種に参加した9名の競技進行内容を整理したものである。大まかな流れではあるが、選手によって取組み方の違いを確認することができる。選手は、競技中2回まで描いた図面をプリントアウトすることが許され、紙面上の図面を直接目で確認し、仕上がりの美しさまで図面データとして表現していく。

写真2は、競技中の様子を示したものである。分刻みで作業が進行していくなか、あっという間の3時間であった。



写真2 建築CAD競技の様子

ここでは、スタッフが一丸となって取組み、最後の最後まで大会の成功を信じる姿があった。

今回の補佐員業務は、大会の成功が選手およびスタッフの情熱なくして成り立たないものであることを改めて痛感する経験でもあった。

4. 第39回技能五輪国際大会

私は、アビリンピックの補佐員業務を終えた翌日に、技能五輪国際大会が行われた沼津市門池地区へ足を運んだ。移動には、雇用・能力開発機構静岡センターの職員の方の配慮で、静岡駅から会場までのチャーター便を利用させていただいた。

大会会場は、「Japan Skills Village」と称したもののづくりイベントと融合した形で設置され、訪れた観客は集まる技に魅せられていた。各種体験コーナー

も行列ができる盛況ぶりであり、一日ではとても廻りきれない規模で繰り広げられていた。

今回は、チャーター便の時間の都合上、約4時間の滞在時間であったため、建築系競技を中心に見学をしてきた。

4.1 大会への出場資格

本大会の出場資格は、技能五輪全国大会で優勝した方で、大会開催年に満22歳以下であることが求められる。またアビリンピックと同様に、国際大会に出場した者は二度と出場できない条件となっている。アビリンピックと大きな違いとして、年齢の上限が設けられていることが大きな特徴であるといえる。

4.2 大会結果

大会結果は表1に示すとおりである。競技は47競技種目にも及び、23ヵ国・地域から812名の選手が参加された。日本は、前回のフィンランド大会では金メダルは5個であったが、本大会はそれを大きく上回り、結果的に金メダル獲得数第1位となる成果であった。特に、「ポリメカニクス」は8連覇を達成し、「洋菓子製造」「造園」での金メダルは初の快挙として注目を浴びた。話題の多い大会であったが、次項では若き匠が放つ技について一部紹介していく。

5. 競技の取組み方―技能五輪国際大会編―

技能五輪国際大会は、参加資格が22歳未満であるため、選手はこれからのものづくりを継承していく立場である。故に、繰り出される技からは、目指すべき自分の姿へ向けての情熱が伝わってくる。今やれる限りのすべてをぶつける姿に、継承者としての使命感、責任感、そして何よりも“誇り”というメッセージを感じ取ることができた。

ここでは、建築系競技の中でも日本人選手が銀メダルに輝いた「建築大工職種」について紹介していく。

5.1 競技会場

会場では、現代の名工である和田先生（審査員）による作品、指導教材などが展示・放映され、伝統

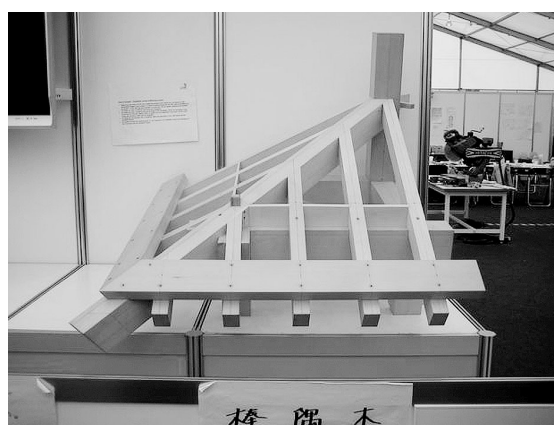


写真3 棒隅木展示模型

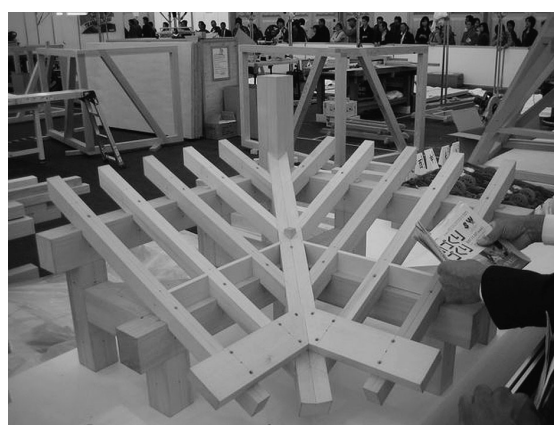


写真4 谷隅木展示模型

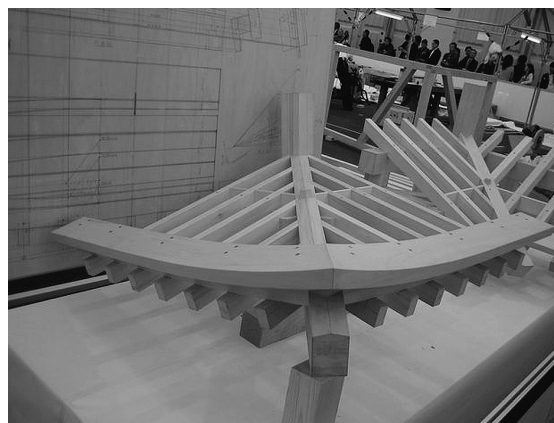


写真5 反り隅木展示模型

技術を重んじる建築大工競技の演出が図られていた。写真3～5は、その展示品の一部である。また、会場には技能五輪選手、技能グランプリ選手等も訪れ、世界レベルの技を盗みにくる姿も見られた。

私自身も建築大工競技への参加経験があり、会場では知り合いの選手と再会を果たすことができた。

技は人をつなぐことを実感する瞬間でもあった。

5.2 競技課題

写真6は、競技会場内に掲示された今回の課題完成パースである。3角形の平面形状をしており、それぞれの角から隅木山を持つ部材が立ち上がり、上部1点でおさまる仕上がりとなっている。1つ1つの部材が違う角度を持って取り付けられているため、全部材の展開図を現寸で起こさなければならない課題である。

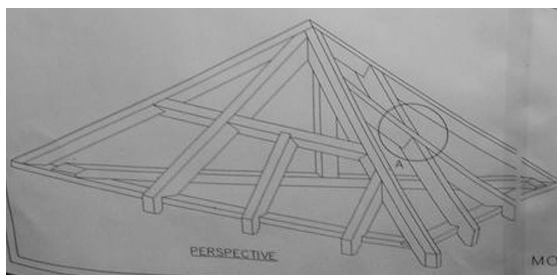


写真6 課題完成パース

この競技は、図面で与えられたものをベニヤの上で現寸展開し、さらに部材への墨付け、加工、組立といった流れで取り組むことになる。ものづくりの流れをそのまま競技の中で再現している種目の1つなのである。

5.3 選手の競技への取組み

写真7は、今回銀メダルに輝いた日本人選手の競技中の様子である。国内大会とは違い、世界大会は機器の持ち込みが自由であったようである。全8カ国による参加であったが、それぞれの国のスタイルが取組みとして表れていた。大掛かりな機械の持ち込みをしている国もあれば、手工具を中心に扱う国もあった。国による違いはここでは具体的に触れないが、同じ課題でありながら、ものづくりのプロセスの違いをわかりやすい形で見ることができ、大変勉強になった。この競技は、ものづくりの一連を再現している競技であるため、作業をしながら次の工程を頭の中で描き、さらに完成図を同時に描きながらの取組みが要求されることになる。したがって、選手の動きには一切の無駄が許されない。これは匠



写真7 競技中の様子

ゆえの技でもあり、日々の在り方そのものが投影されていることに気づかされる。若き匠は、自身の姿を通して「次なる展開」「目指すべき目標」を技という形で魅せてくれているのである。

5.4 競技を終えて

滞在日程の関係上、競技最終日まで見学することはできなかった。ここに、主催者ホームページのアドレスを掲載し、1人でも多くの方に、大会の足跡を目にしていだきたいと思う。

〔主催者ホームページ〕

<http://www.pref.shizuoka.jp/syoukou/syo-2007/>

6. まとめ

大会の目的を全うするために選手とそれを支える大会運営スタッフの存在がある。この両者があってはじめて大会が成り立つことを改めて実感した。選手は大会中、最も華やかな存在である。その姿に映し出される“ものづくり継承者”としての強い意志が観る者を魅了し、感動を与える。目指すべき自分と向き合い、技にすべてを託す選手の姿はこれからものづくりを目指す若者へ強烈なメッセージを残したに違いない。一方で、この技のメッセージを大会運営という形で支える関係スタッフの存在を忘れてはならない。彼らは、選手の力量を読み、試行に試行を重ね、また選手の力が十二分に発揮できる環境づくりにも配慮し、あらゆる角度から大会を支えている。大会の成功はまさに選手とスタッフが一体

となって作り出しているといえる。このすばらしい大会を今後も継続していくためには、こうした取り組みがあることを広く伝えていかなければならない。今大会の成功が、今後の「ものづくり・ひとづくり」に向けての一步であり、一層発展しながら継続されることを心から願っている。

【謝辞】

紙面の関係上、職人技のすばらしさ、選手および大会運営スタッフの方々の並々ならぬ努力について

十分に紹介しきれなかったことを残念に思います。この場を借りてお詫びすると共に、大会全体を成功に導かれた関係各位に尊敬の意を表します。そして、今回補佐員業務という貴重な機会を与えていただき、技能へのかかわりの一環を御指導いただきました職業能力開発総合高等学校の水嶋先生にこの場を借りて心から感謝を申し上げます。最後に、大会中にいろいろと御支援いただきました静岡センター職員、居住系指導員の方々に心から感謝を申し上げます。

改定発刊教科書のご案内



機械加工実技教科書

A4判・338ページ／定価 3,150 円（税込）

ISBN978-4-87563-087-6

●職業能力開発総合高等学校 能力開発研究センター 編

●厚生労働省認定

最新の技術を
反映した大幅改定

1. 工具一覧
2. 安全作業
3. 測定及びけがき実習
4. 機械工作実習
5. 旋盤
6. フライス盤作業
7. 研削加工
8. NC プログラミング
9. NC 旋盤作業
10. マシニングセンタ作業 ほか

今年度 改定発刊の教科書

●自動車整備実技教科書

A4判・272ページ／定価 2,835 円

●測量実技教科書

A4判・144ページ／定価 1,470 円

●機械加工実技教科書

A4判・338ページ／定価 3,150 円

●金型工作法 —金型の役割と作り方—

B5判・250ページ／定価 2,100 円

●木工製品設計

B5判・220ページ／定価 2,100 円

定価は税込み価格です。

■発行所

社団法人 雇用問題研究会 <http://www.koyoerc.or.jp>

〒104-0033 東京都中央区新川1-16-14 電話 03-3523-5181 (代表) FAX 03-3523-5187